

おとんとおかのエクセル劇場

「おかん、涙の別れ!!」の巻

シートをメニューから呼び出すマクロ

ファンテック 古賀直樹

おとんとおかのエクセル劇場、ついに感動の最終回がやってまいりました。毎月おかんと共に、作って楽しい、使って楽しいエクセルのシステムをご紹介してきましたが、ついに今月で感動の最終回を迎えます。今月は最後にふさわしく、今までに作ったシートをメニューから簡単に起動するためのマクロをご紹介します。それでは、涙をこらえて始めましょう、「おかん、涙の別れ!!」の巻。

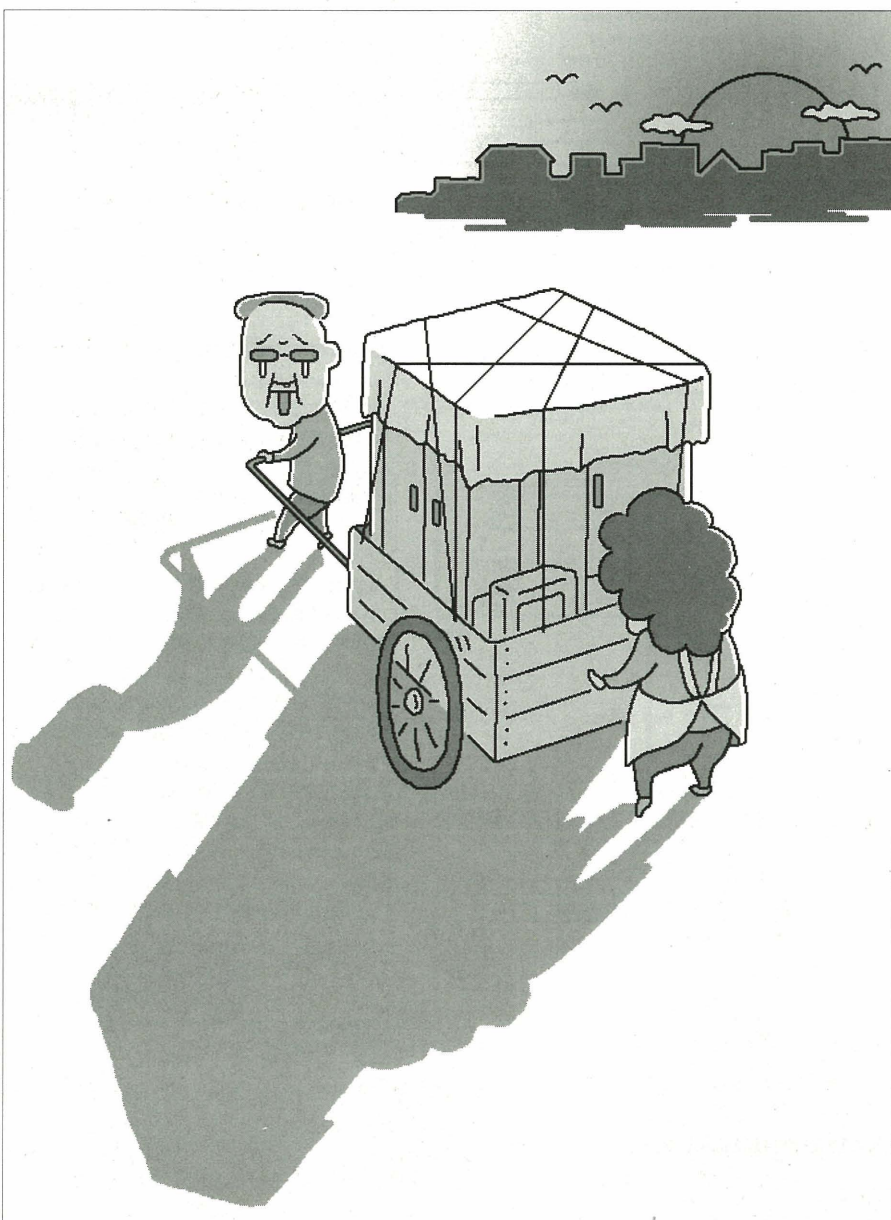


イラスト 広田正康

今月のすとーりー

おかんはつらかった。住み慣れたこの家を出ていかなければならないなんて…。いくつもの思い出が染み付いているこの部屋。見なれたはずの窓の外の景色だって、これっきりだと思つくと、寂しさがこみ上げてくる。静かに涙を拭いながら、荷物を整理するおかんであった。

おかんのメニューマクロ

マクロの内容

このマクロはエクセルのシートをメニューからオープンするものです。使い方に合わせて、ボタン型とメニュー型の2種類のメニューになっています。ボタン型のマクロでは、それぞれのボタンをクリックしてオープンします。メニュー型のマクロでは、おかんメニューからシートを選択します。

ボタン型マクロ

●マクロの作り方

STEP1 マクロの作成

このボタンマクロでは、ワークシートとマクロシートを使用します。まずは、マクロシートから作り始めましょう。[ファイル]メニューの[新規作成]コマンドで、マクロシートを開きます。この新規のマクロシートに、ワークシートの場合と同様に、表1の文字や式を入力してください。

数式を入力したときに、ワークシートでは計算結果が表示されていましたが、マクロシートの場合には数式がそのまま表示されます。そのため、入力時にセル幅が足りなくなるので、少し拡げておいてください(画面1)。

簡単にマクロの説明をしておきましょう。エクセルでは、マクロは先頭に名前を付け、その下に関数を用いて計算式を記述します。ただし、マクロシートでは、通常のワークシート関数の他に、コマンドの実行等が行えるマクロ関数も使用できま

表1

```

A1 Auto_Open
A2 =OPEN("ボタンメニュー")
A3 =HALT()

B1 OpenFile
B2 =ARGUMENT("FileName",2)
B3 =ERROR(FALSE)
B4 =OPEN(FileName)
B5 =IF(ISERROR(B4))
B6 =ALERT(FileName&"が見つかりません。フォルダを変更してください。",3)
B7 =HALT()
B8 =END.IF()
B9 =ACTIVATE(FileName)
B10 =RETURN()

C1 SHEET1
C2 =OpenFile("勝ち馬投票券購入支援")
C3 =RETURN()

C5 SHEET2 ←シートの数に合わせて追加します
C6 =OpenFile("パート金額計算")
C7 =RETURN()
    
```

す。関数を実行すると、一行ずつ下に処理を移動して、RETURN関数(戻る)、またはHALT関数(終了する)が現れるまでマクロが実行されます。

それでは、ひとつずつ整理しましょう。まず、A1~A3は特殊な名前を付けたマクロです。この「Auto_Open」という名前が付いていると、マクロシートのオープン時に自動的に実行されます。ここでは、「ボタンメニュー」という名前のシートをオープンするようにしています。

B1~B10はファイルオープンのためのサブルーチンです。オープンしようとしたファイルが見当たらない場合には、「フォルダを変更してください」という警告メッセージを表示しています。

C1~C3はメニューのボタンによって実行されるマクロです。C2にオープンされるファイル名を記述しておきます。ボタンの数によって、C5~C7のように、同様のマクロを記述しておいてください。ただし、マクロの名前は重複しないようにSHEET3、SHEET4と順次変更しておきます。

STEP2 マクロの名前定義

記述したマクロには、名前を定義しておく必要があります。名前を定義しておかないと、ワークシートから実行することができません。

まず、A1のセルを選択して、[式]メニューで[名前定義]コマンドを実行して、[OK]をクリックします。B1のセルも同様に、名前定義を行います。ここまでは、ワークシートでの名前定義とまったく同じです。次に、C1のセルを選択して、[式]メニューで[名前定義]コマンドを実行し、[コマンド]を選んでから[OK]ボタンをクリックします。ここでのコマンドとは、コマンドマクロという意味で、コマンドマクロにしておかないと、ワークシートから実行することができません(画面2)。

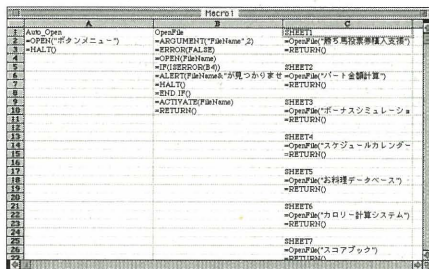
同様に作成したSHEETマクロの分だけ、コマンドマクロとして定義しておきます。

セル範囲	名前	マクロ
A1	Auto_Open	なし
B1	OpenFile	なし
C1	SHEET1	コマンド
C5	SHEET2	コマンド

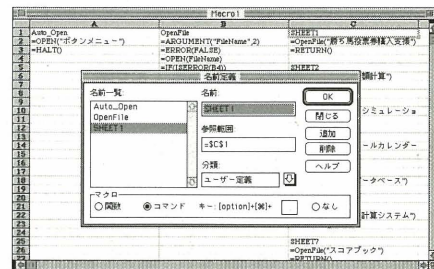
↑
(作った分だけ定義します)

STEP3 ボタンメニューの作成

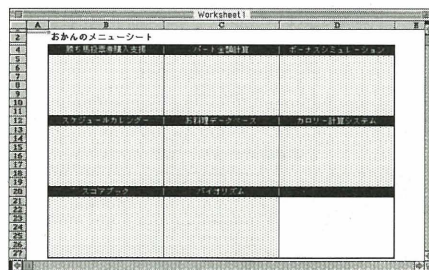
それでは、メニューシートを作成してみましょう。エクセルでは、ボタン機能がありますので、簡



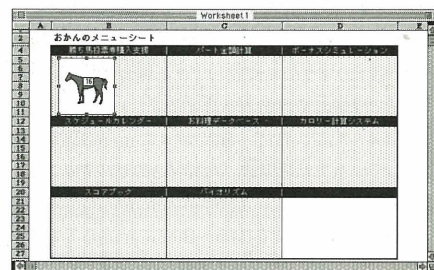
画面1: マクロ入力後



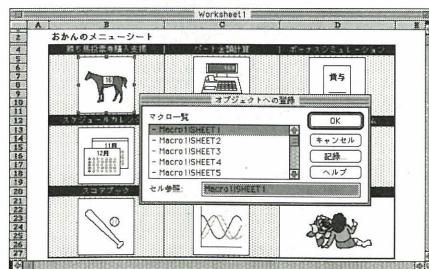
画面2: マクロの名前定義



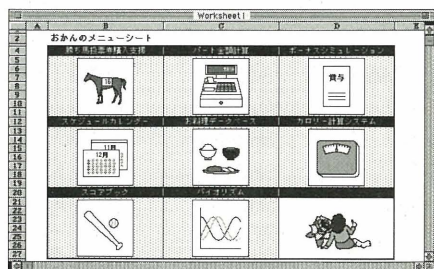
画面3: ボタンシートのデザイン



画面4: イラスト貼り込み後



画面5: オブジェクトへの登録



画面6: 完成画面

単にボタンを作ることもできます。また、描画ツールを使用して、エクセル上で描いた図やイラストをボタンにすることもできます。しかし、ここではもっときれいなメニューにするために、他のグラフィックツールで描いたボタンをエクセルに貼り込

で使用します。まずは、ワークシートにメニューの下地を作ります。どんなデザインでも大丈夫です。いままで作ったシステムとは違い、セル位置などはまったく影響しません。デザインが思い浮かばないという方

は、画面3を参考にして作成してください。

そして、エクセルと他のグラフィックツールを同時に起動してコピー&ペーストでも、スクラップブック経由でコピー&ペーストのどちらでもOKです。エクセルにイラストを貼り込んでみましょう。画面4では、馬のイラストを貼り込んだところです。後はこれをドラッグして位置を調整するだけです。同様にして、ボタンの数だけイラストを貼り込みます。

最後の作業は、それぞれのボタンへのコマンドマクロの登録です。イラストを選択して、[マクロ]メニューの[オブジェクトへの登録]コマンドを実行してください(画面5)。ここで、SHEET1、SHEET2といった、それぞれのマクロ名を選択すれば、ボタンのできあがりです。なお、このワークシートは、ボタンメニューと名前を付けて保存します。

メニュー型のマクロ

マクロの作り方

今月はもうひとつオマケにマクロをご紹介します。ボタンなんて面倒くさい、もっと簡単にメニューがあればよい、とおっしゃる硬派のあなたには、このマクロがピッタリです。新規のマクロシートに、表2のマクロを入力してください。ボタン型、表1のマクロを作成してある場合には、追加・修正で簡単にできあがるはずですよ。

A14~A22、B15~B22がメニューの設定を記述しているエリアです。A2とA3のセルでメニューに追加しています。A15~A22に対応して実行したいマクロの名前をB15~B22に記述しておきます。

後はマクロシートで次の名前を定義すれば完成です。

セル範囲	名前	マクロ
A1	Auto_Open	なし
B1	OpenFile	なし
C1	SHEET1	コマンド
C5	SHEET2	コマンド

↑
(作った分だけ定義します)

マクロの使い方

ボタン型では、マクロシートをオープンすると、自動的にボタンメニューがオープンされます。画面上で、使用したいシステムのボタンをクリックすれば対応したシートがオープンします。

メニュー型では、マクロシートをオープンすると、メニューバーにおかんメニューが追加され、システムを選択すると対応したシートがオープンされます。



画面7: マクロ入力後

「おかんのメニューマクロ」はいかがでしたか? ぜひ、今までにご一緒で作ったシステムや皆さんがお作りになった大切なシートをこのメニューに登録してみてください。

長い間、お付き合いただきました「おとんとおかんのエクセル劇場」は、今回をもって終幕とさせていただきます。まだまだネタの続きを考えていたのに非常に残念ですが、またどこかで皆様のお目に掛かることもあるかと思えます。それでは、また会う日まで…。さようなら…。



画面8: 実行後のメニュー

表2

A1	Auto_Open	
A2	=ADD.MENU(1,\$A\$14:\$B\$22)	
A3	=ADD.MENU(2,\$A\$14:\$B\$22)	
A4	=HALT()	
A14	おかん	←メニュー名
A15	勝ち馬投票券購入支援	←登録するシートのタイトル
A16	パート金額計算	
A17	ボーナスシミュレーション	
A18	スケジュールカレンダー	
A19	お料理データベース	
A20	カロリー計算システム	
A21	スコアブック	
A22	バイオリズム	
B1	OpenFile	
B2	=ARGUMENT("FileName",2)	
B3	=ERROR(FALSE)	
B4	=OPEN(FileName)	
B5	=IF(ISERROR(B4))	
B6	=ALERT(FileName&"が見つかりません。フォルダを変更してください。",3)	
B7	=HALT()	
B8	=END.IF()	
B9	=ACTIVATE(FileName)	
B10	=RETURN()	
B15	SHEET1	←実行するマクロ名
B16	SHEET2	
B17	SHEET3	
B18	SHEET4	
B19	SHEET5	
B20	SHEET6	
B21	SHEET7	
B22	SHEET8	
C1	SHEET1	
C2	=OpenFile("勝ち馬投票券購入支援")	←オープンするファイル
C3	=RETURN()	
C5	SHEET2	
C6	=OpenFile("パート金額計算")	←シートの数に合わせて追加します
C7	=RETURN()	

